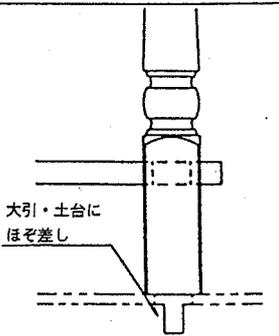
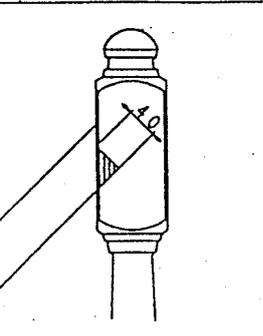
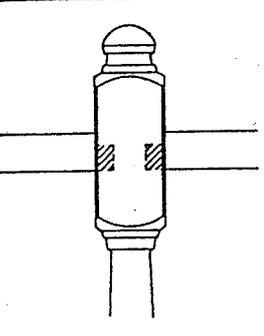
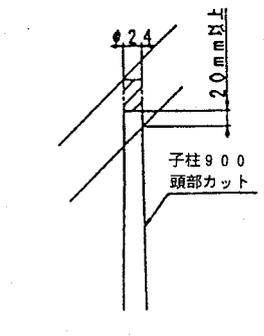
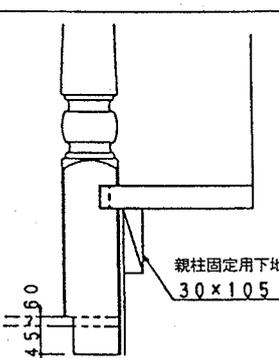
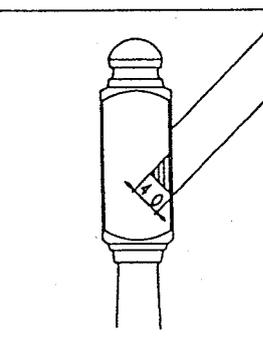
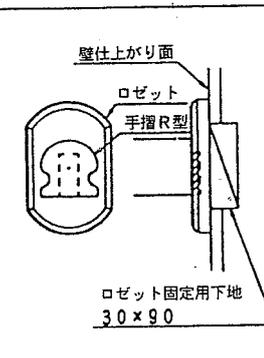
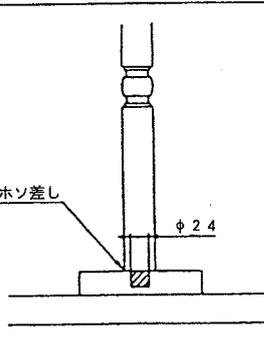


階段廻り部材施工説明書

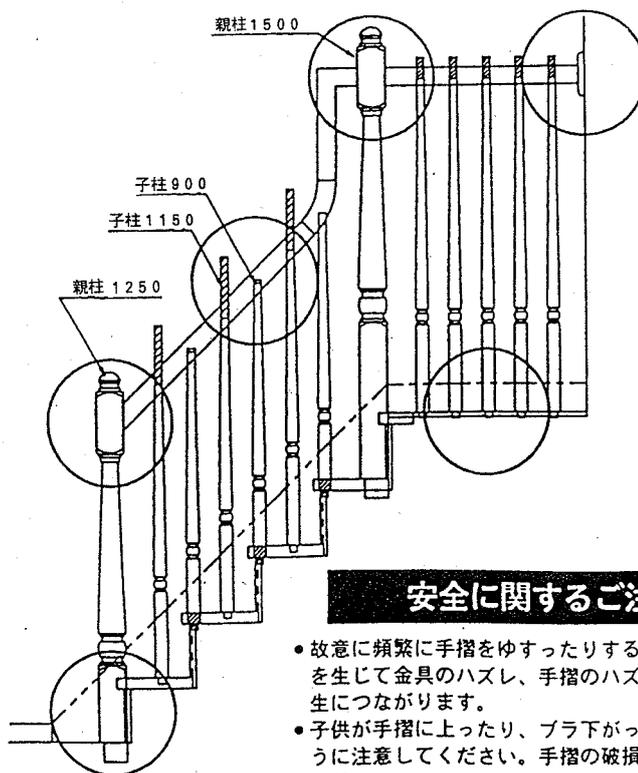
①各部材の接合

各部材の接合はボソ加工とし、エポキシ系の接着材をご使用ください。

<p>親柱下部正面</p>  <p>大引・土台に ほぞ差し</p>	<p>親柱上部</p>  <p>45°</p>	<p>親柱上部</p> 	<p>子柱上部</p>  <p>φ24 20mm以上 子柱900 頭部カット</p>
<p>親柱下部側面</p>  <p>親柱固定用下地 30×105 45±0.5</p>	<p>親柱上部</p>  <p>45°</p>	<p>ロゼット</p>  <p>壁仕上がり面 ロゼット 手摺R型 ロゼット固定用下地 30×90</p>	<p>子柱下部</p>  <p>ホソ差し φ24</p>

(1)施工に関して必要な工具

- 穴あけ用ドリル
 - 〔φ30mm〕
手摺接続ボルトに六角ナットを取付け、スパナで回すための穴をあけるために用います。
 - 〔φ24mm〕
手摺下面、踏板上面またはボーダー上面に子柱を接続するホソ穴をあけるために用います。
 - 〔φ9mm〕
接続ボルトを差し込むバカ穴をあけるために用います。
 - 〔φ4mm〕
接続ボルトをねじ込む道穴をあけるために用います。
- 万力
手摺接続部分を精度高く加工するため（木工用）万力を使用されることをおすすめします。※万力のはさむ部分は、手摺に傷がつかないように板を当てるなどの処置をしてください。
- その他
のこぎり（造作用の丸鋸など精度の高いもの）、ハンマー、ドライバー、メジャー、エポキシ接着剤、墨出し用具、やすり、水準器、メガネレンチ（接続ボルトのねじ込み用）等。

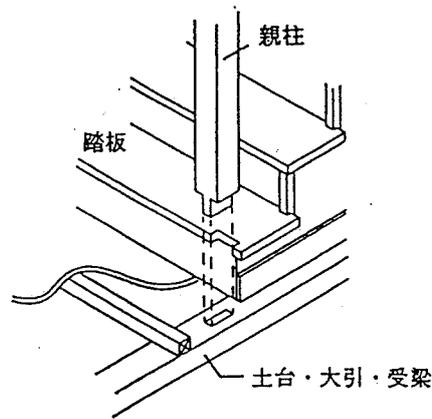


安全に関するご注意

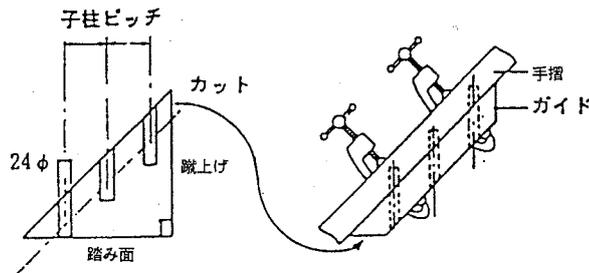
- 故意に頻繁に手摺をゆすったりすると、固定部の緩みを生じて金具のハズレ、手摺のハズレ、落下事故の発生につながります。
- 子供が手摺に上ったり、ブラ下がり遊ぶ事のないように注意してください。手摺の破損、転落事故につながります。
- ワックスをご使用の際は、滑りによる転倒防止のため滑り止め剤入り木質用ワックスをお使いください。

②手摺R型の施工

- (1)手摺はホゾ加工をして親柱に差し込み、ボンド、かくし釘でしっかり固定して下さい。
- (2)子柱はホゾ加工又は大入加工をして手摺及び踏板にボンド、かくし釘でしっかり固定して下さい。
- (3)親柱は大引又は受梁にホゾ加工をしてしっかりと差し込み、ボンド、釘、金具等でしっかり固定して下さい。
- (4)手摺への子柱取り付け用穴あけ方法

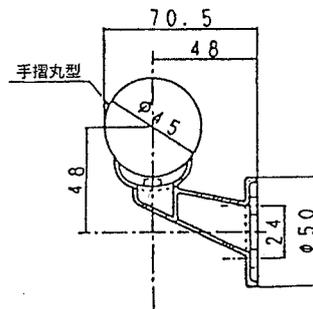
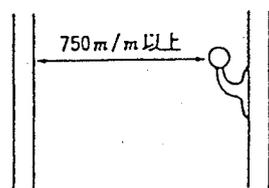
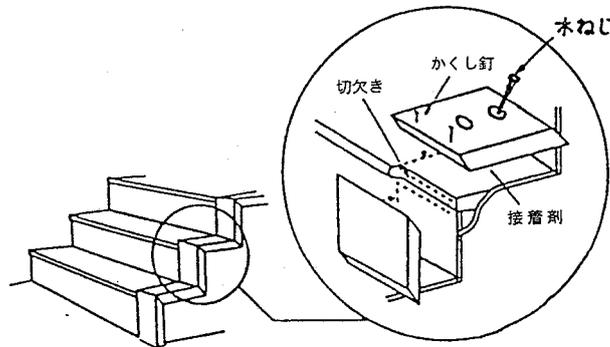


- 角度のついた手摺への穴あけには、厚み30mm以上の案内板（ガイド）を作り、クランプ等で固定してφ24mm、深さ30mmの穴をあけて下さい。



- (5)ボーダーを併用する場合

- ボーダーの厚みが30mmありますので鼻の出を30mm以下にして下さい（ボーダーの化粧面が、踏板の内部に入り込まないようにするためです）。
- ボーダーは留め加工をしながら、踏板、蹴込み板に沿ってはちまき状に廻っていきます。その際に、蹴込みに沿って降りる時、踏板とボーダーの干渉部分は、踏板をカットしておきます。
- 階段の外壁をボーダーの下までのぼします。踏板は壁の中に完全にかくれます。ボーダーを止める時は、子柱のホゾ加工した中をねじ釘等で固定して下さい。



③手摺丸型の施工

- (1)階段の斜め部分に補助手摺としてお使いになる場合、有効巾が、手摺の内法になりますので十分ご注意下さい。
- (2)手摺の高さは、踏板の先から800~900mmをお勧めします。

